
友の会通信

洋学の歴史を楽しく学ぶ
津山洋学資料館友の会

2024 February No.18



第 36 回史跡見学会・晩秋の真庭市関の鈴木家へ向かう（2 ページに関連記事）

CONTENTS

第 36 回史跡見学会	
真庭市南部の史跡をたずねて	・・・ 2
マッカーサー総司令官の執務室拝見	・・・ 3
資料館細見	
蘭学・洋学 史跡探訪⑥	・・・ 4
薬草の小径から⑮	
文化講演会・総会開催のご案内	
編集後記	

真庭市南部の史跡をたずねて

会員 万波 雅敬

昨年12月3日に開催された史跡見学会、今回は真庭市南部の史跡を巡る旅でした。

最初は久世の興善寺を見学しました。興善寺は移築された久世の郷学・典学館の門、また箕作秋坪の曾祖父で典学館の塾頭を務めた菊池正因のお墓が残されています。次は落合総合センター内にある石井宗謙の顕彰碑、そして関にある古い医家である鈴木家を見学した後、最後に下砦部にある教諭所の跡地と箕作秋坪の父である菊池文理の墓所を訪ねました。



鈴木家前で奥様玲子さんをかこんで



落合総合センターにある石井宗謙の顕彰碑の前で説明を聞く参加者

興善寺や教諭所の跡地では「こういう施設が、医者など様々な分野で活躍していく人が生まれる素地となっていたのだなあ」などと思いを馳せ、鈴木家では歴史のある立派なお宅を拝見し、当時から残る患者の診察や薬の調合を行っていたとされる「調合の間」やめずらしいガラスで作られた欄間などを大変興味深く見学しました。また、ご当主の奥様には、丁寧にご案内いただき、甘酒のご接待までいただきありがとうございました。

そこから下砦部へと足を伸ばし教諭所跡を見学、菊池家墓所にも参拝後、近くのほたる庵で昼食。庄屋をつとめた古民家を改装したお店で歴史を感じる雰囲気の中、地元食材を使った釜飯や天ぷらをいただきました。

最後に帰りの休憩で立ち寄った道の駅で買っ

見学コース

- ①菊池正因墓所・典学館旧門
(久世 興善寺)
- ⇒②石井宗謙顕彰碑
(落合垂水 落合総合センター)
- ⇒③在村医 鈴木家屋敷
(関)
- ⇒④菊池文理墓所・砦部教諭所跡
(下砦部)
- ⇒⑤昼食 ほたる庵 (下砦部)



下砦部にある教諭所馬場跡で説明をする小島館長

た山芋の銀飛沫は、すり下ろすとももの凄い粘りでびっくりしましたが、こちらも大変おいしくいただきました。
当日は雨が心配されていましたが、参加されていた下山顧問の「私は晴れ男ですよ」の一言もあり、雨も降ることなく巡ることができ、素敵な一日を過ごすことができました。

マツカーサー総司令官の執務室拝見

顧問 下山 純正

第一生命保険株式会社が4年後に創業125周年を迎えるにあたり、創業者矢野恒太（岡山市出身）を顕彰する公益財団法人矢野恒太記念会から、遺品の資料的価値と今後のイベント展開について相談依頼を受けましたので、年明け早々有楽町の本館まで出かけてきました。

第一生命旧館は、連合軍が第二次世界大戦後の日本占領中に総司令部「GHQ」を設置した場所として知られていますね。そこでご厚意に



マツカーサー執務室デスク

より、保存されている最高司令官ダグラス・マツカーサーの執務室を特別にご案内いただきました。重厚な執務室に残る机や椅子の前に立つとマツカーサーの息づかいを感じられるような不思議な感覚を体験することができました。

資料館細見 ～漢方薬のディスプレイ～

スポット展示コーナーとギャラリーとを仕切っている壁面は、壁そのものが大きなガラスケースになっていて、展示コーナーとギャラリーのどちら側からでも展示物を見られます。ここには、漢方薬の材料となるもの計15種類が展示されています。

漢方薬といえば、芍薬や大黃、甘草などの植物が一般的にはよく知られていますが、こちらには蝮・百足・蝸牛に狐の舌などという動物や虫まで並んでいます！さらには、滑石や石膏などといった岩石までも！中国では古くから、何がどんな病気や症状に効くのか、経験的に調べ尽くされていたようです。

漢方の世界には「本草学」という薬のもととなるものを研究し分類する学問があり、『本草綱目』に代表されるこの分野の書物をひもとけば、植物・動物・鉱物がそれぞれどういう薬効を持っているのか、詳しく説明されています。その中には、人の項目まであって、頭髮から血や肉、内臓までもが、薬になるものとして分類・説明されているのです。江戸時代には、人の胆嚢を用いた「人胆丸」という薬が、実際に作られて販売されていたようです。

話を洋学資料館のディスプレイに戻します。「これって本物なの？」と質問されることも多いのですが、真正正銘のホンモノです。おもに生薬を取り扱っている小城製薬株式会社から寄贈されたものです。新館の開館準備で各地を奔走されていた、当時の資料館長の下山顧問が、大阪の道修町を歩いていた時に、同社の店先のディスプレイを偶然見かけ、展示資料としての提供を相談して快諾されたとのこと。

ちなみに、九香虫という聞き慣れない虫も並んでいます。その正体はいったい……？どんな良い匂いの虫なんだろうと思いきや、エッ!!あの虫が……。気になった方は検索してみてください。



漢方薬のディスプレイ

小浜の杉田玄白と中川淳庵を訪ねる

会員 松浦信輝

解体新書を翻譯したのは、前野良沢、杉田玄白、中川淳庵、桂川甫周の他、石川玄常、嶺春泰、烏山松圓、桐山正哲と伝わっています。この中の杉田玄白と中川淳庵を出身地の小浜を訪ねました。

JR小浜駅前にある杉田玄白記念病院に向かうと前庭に玄白の銅像が建てられています。また玄関ホールには、杉田玄白記念コーナーが設けられ、解体新書等の展示があります。敷地内には中川淳庵記念の薬草園もあり地域の方々に大切にされているようです。病院の向い側の公園内にも玄白の顕彰碑を見ることが出来ます。

淳庵は江戸・小石川金富町の金剛寺に葬られました。その後無縁となり墓はありません。この金剛寺には「贈従四位中川淳庵先生舊築地」の碑があります。戦後の寺の移転に伴い失われてしまいました。

幸いなことに小浜市青井にある高成寺には、昭和十三年に建てられた中川淳庵の顕彰碑が唯一残っています。淳庵についての本は資料館の図書室に在りますので、展示室の解体新書と共に

ご覧になってはいかがですか。
小浜駅の隣の東小浜駅には福井県立若狭歴史博物館があり、こちらの館にも解体新書の実物や縁の品々が展示されております。

参考文献 和田信一郎『中川淳庵先生』
立命館出版（一九四一）
アクセス

杉田玄白記念公立小浜病院 JR小浜線
小浜駅前
高成寺 小浜市青井 JR小浜駅から西へ
徒歩二十分
若狭歴史博物館 小浜市遠敷 JR東小浜
駅から東へ徒歩五分



写真 高成寺にある中川淳庵先生之碑

文化講演会・総会開催のご案内

4月13日午後1時30分から早稲田大学文学学術院教授谷口眞子先生をお招きし、『近代的啓蒙』と明治日本の国家構想「西周と津田真道」と題して講演をいただきます。続いて友の会総会を開催予定です。皆さまふるってご参加ください。



谷口眞子先生

薬草の小径から

15

ウメ ハラ科
中国原産の落葉高木。青梅の皮をむき、いぶして干したものを生薬の烏梅（うばい）といいます。下痢止め、解熱鎮咳、回虫駆除薬として使用。民間では梅干しを代用します。



編集後記

一月は行く、二月は逃げる、三月は去る。という言葉通り、令和六年辰年も立春を過ぎました。元日には能登半島地震が発生、翌日には被災地へ物資を輸送途中の航空機の事故と心が痛む出来事が続きました。そんな時、昨年の牧野植物園研修旅行に参加された方から「購入したバイカオウレンが花を咲かせました」と嬉しい連絡が写真付きで届きました。寒い季節であっても植物の息吹に心なごまされる思いがします。

友の会通信では会員のみなさまからの「友の会思い出コーナー」への投稿をお待ちしています。健康に留意しながら健やかな一年になりますように。今年もよろしくお願い致します。

(K)

津山洋学資料館友の会通信

第18号

令和6年2月
編集・発行

津山洋学資料館友の会事務局
〒708-0833

津山市西新町5

津山洋学資料館内

☎ 0868-23-3324

yougaku@city.tsuyama.lg.jp